

開院30年・こあら通信300号 横田俊一郎



1998年(平成25年)5月に創刊したこあら通信が、25年を経て300号を迎えました。長続きしたのは、スタッフとの協働で編集してきたことが大きかったと思いますが、読者の皆さんからの反応も大きな原動力でした。

＜伝えたいこと：病気とホームケア＞

院内報を作り始めた理由の一つは、日常の診療の中で受診する皆さんにじゅうぶん伝えきれないことを別の方法で伝えたいと思ったからです。病気のこと、ホームケアのことを中心に、同じ内容の繰り返しも多いですが、小児科では子どもの成長に伴って患者さんが入れ替わりますので、意味があったと思っています。また、病気そのものやホームケアもどんどん変化しています。例えば突発性発疹は開院当時には生後6~12か月にかかることが多かったのですが、最近ではほとんど1歳以降です。風邪や中耳炎によく使われていた抗菌薬も、最近ではほとんど使わなくなりました。食物アレルギーもすぐに完全除去していたのが、いまではできるだけ食べさせる治療方針に変わってきています。このように医療や看護は新たな知識によって変化する部分も多く、固定した考えにとらわれず、いつも現場をよく見て自分で考えていくことが大切です。

＜伝えたいこと：子育ての面白さ＞

もう一つは、子育てに関して自分の考えていることをお伝えしたいと思い、自分の経験や感じたこと、先輩たちから聞いた印象的な話などを書いてきました。自分自身が子育てをしている時でもあったので、反省の気持ちを込めてもいました。

今月の診療予定

☆ 休日診療所当番
♡ 休日診療所当番(れいな先生)

★ 夜間診療所当番
♥ 夜間診療所当番(れいな先生)

日	月	火	水	木	金	土
						1 横田
2	3 横田	4 れいな 横田/れいな	5 横田	6 横田/れいな れいな	7 れいな	8 横田 アレルギー-外来 (安藤先生)
9	10 横田	11 れいな れいな	12 横田 午後休診	13	14 れいな 横田/れいな	15 横田
16	17 横田	18 れいな 横田/れいな	19 横田	20 横田/れいな れいな	21 れいな	22 横田
23/30	24 横田	25 れいな 横田/れいな	26 横田	27 横田/れいな れいな	28 れいな	29

5月3日(水)~5月7日(日)は休診となります。JAMBO!もお休みです。

診察

午前受付 08:45~
午後受付 15:00~

予防接種

08:15~08:30
月・木・金・土
15:00~15:30
火・金

健診

14:00~15:00
火・水・木・金

2週間健診

14:00~15:00
木・金

発達と育児の相談室

臨床心理士：
橋本友紀先生
9:30~12:30 毎週水曜
松本法子先生
10:30~15:30 隔週火曜

予約制です。また、担当医師は予告なく変更となることがあります。ご了承ください。

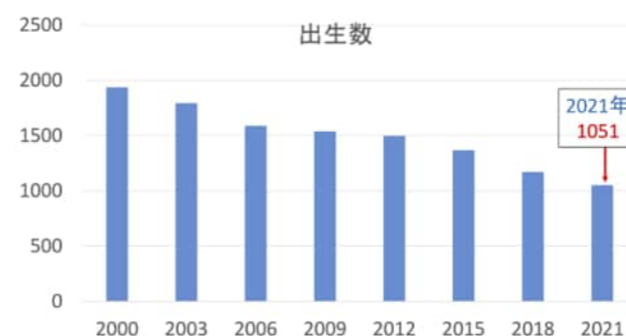
小児科医だから子育てがじょうずと思う方も多いでしょうが、けっしてそうではありません。子育ては一人ひとり全く違いますし、正解のない問題を解くようなものです。結果が出て初めて評価ができるものなので、当事者には何が正解がよくわかりません。しかし、だからこそ子育ては面白いのではないのでしょうか。子どもを可愛いと思い、子どもを一人の人間として認め、子どもを信じるのが何より大切なのだと思います。

＜これから＞

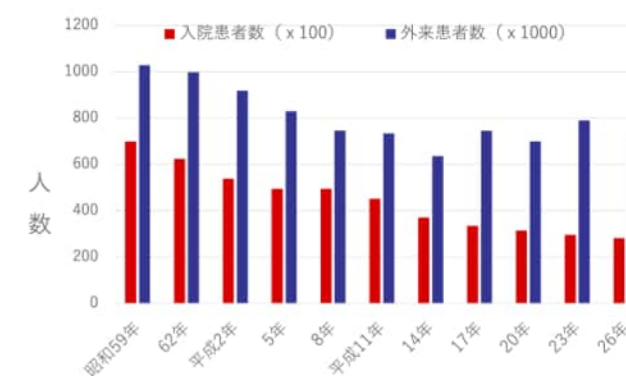
今月は私が父からクリニックを引き継いで30年になる節目の時でもあります。娘といっしょに診療するようになり、これからもクリニックは続けられそうなので安心ですが、自分はどうしようかと考えることもあります。

いつも話しているように、子どもの病気の大部分は自然に治る病気です。私たち小児科医は病気を治しているのではなく、子どもが自分の力で自然に治ってゆく経過の中で、その手伝いをしたり、ご両親の心配に寄り添ったりすることが仕事の中心になっています。そのことをもう少しわかりやすく受診する皆さんにお伝えできればと思います。

小田原市の出生数の推移



日本の小児の入院外来



子どもの生まれる数は昨年80万人を割り込み、戦後間もない時の270万人は夢のような数字です。小田原市の出生数も1000人を切ろうとする勢いで、開業当時の約半分です。今、クリニックの小児医療に大切なのは、

- ① 予防接種や健診などを通して子どもをより健康にすること
- ② 子育てに関する知識や安心感を届けること
- ③ 8人に1人いると言われる「特別なケアが必要な子どもたち」に寄り添い、社会の一員として生活できるように手助けすることだと思います。

子どもを診療する中で、クリニックを訪れる方々に子育てが面白いと感じてもらい、もう一人子どもが欲しいと思ってもらえることが究極的な願いかもしれません。

これからもよろしく願いいたします。

特集① 予防接種過去と現在

1990年代

[公費] 麻疹(1)風疹(1)三種混合(4)二種混合(1)
日本脳炎(5)BCG(集団1)・生ポリオ(集団2)
[私費] おたふく(1)・水痘(1)・インフルエンザ等

2023年

[公費] 麻疹風疹(2)四種混合(4)二種混合(1)
肺炎球菌(4)HIB(4)B型肝炎(3)
ロタウィルス(2or3)日本脳炎(4)・BCG(1)
水痘(2)子宮頸がん(3)
[私費] おたふく(2)三種混合(1)不活化ポリオ(1)
インフルエンザ等
※()は接種回数

予防接種の効果

水痘の予防接種と感染者のグラフです。接種が進むにつれて患者数が大幅に減っています。



祝開院30年！父の背中を追って…これから 泰道れいな

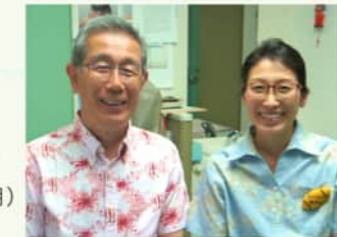
今月はこあら通信300号、クリニック30周年という節目を迎え、今日まで父が築き上げてきたものの重みを感じています。祖父が他界して父がクリニックを引き継ぐことになった時、私は小学校4年生でした。小さい時から医師になりたいという漠然とした思いはありましたが、この頃まさか将来的にこの地で父と一緒に働くようになるとは思っていませんでした。願いが叶って大学は医学部に進み、卒業後しばらくは東京の大学や市中病院で働いていましたが、子育てを機に小田原へ移り住むことになり、2018年に父と私の二診体制が細々と始まりました。最初は馴染みのない職場でアルバイト感覚の診療でした。ただ時間があれば背後で父の診療を見学し、父と患者さんのやりとりを見ているうちに段々と地域医療の魅力に引き込まれていく自分がいました。大学や市中病院で働いていた時のように数ヶ月に1回しか患者さんと会わないより、「心配だったらまた明日来てね。」と言えたり、兄弟の受診で連日お母さんと顔を合わせるような距離感が私は心地良いなと思えました。今は顔馴染みの患者さんも増えてきて、より診療が楽しくなっています。自分の専門分野であるアレルギー外来も徐々に定着してきました。一番多いのは食物アレルギーの患者さんですが、今年はスギ花粉が過去10年で最大の飛散量と言われており花粉症の患者さんが急増しています。当院では根本的に体質を変えていく治療、舌下免疫療法を行っています。今後は予防を重視した舌下免疫療法にもっと力を入れたいと思っています。クリニックの診療以外に休日夜間診療や市の集団健診、園医や学校医の仕事などにも関わっています。小児科医として、また自分もこの地で子育てをしている一人の親として、この地域が子ども達の育ちにとってより良い環境になって欲しいという願いを込めて活動しています。これからも引き続き、よろしく願い致します。

特集② 先生のお仕事紹介

横田先生、れいな先生は医院外でもさまざまな仕事をしています。近年の小規模保育所の増加に伴い、園医として健診に出向くことも大幅に増えました。

横田先生

- (園医担当)
- 保育所悠悠(ゆうゆう)
- グリーンゲール
- 酒田みなみの保育園
- 酒田みずのべ保育園
- 酒田保育園
- 友愛幼稚園・めぐみの丘幼稚園
- 五百羅漢保育園・御濠端幼稚園
- 富水小学校校医
- おだわら看護専門学校校長
- 小田原短期大学非常勤講師
- 積善会看護専門学校講師
- 小田原市教育委員会関連
- アール・ド・ヴィーヴル理事
- 小田原医師会顧問
- 市集団健診担当(2~3回/月)
- 夜間・休日診療所当番(2~3回/月)



れいな先生

- (園医担当)
- 報徳保育園
- 富水保育園
- 桜井小学校校医
- 小田原医師会活動
- 市集団健診担当(2~3回/月)
- 夜間・休日診療所当番(2~3回/月)

2020~



2021/5 一時預かりpole pole開始
2020/9 WEB問診開始

2010~

2019/8 医院改装
2018/8 二週間健診・子育てトーク スタート
2018/4 れいな先生との2診体制
2014/12 こあら通信200号発行
2014/7 病児保育室JAMBO!開室
2013/4 開院20周年記念行事



2000~

2006/8 こあら通信100号記念誌
2001/11 ホームページ開設



1990~

1998/5 こあら通信創刊号発行
1997/5 現在の建物に移転
1993/4 横田小児科医院スタート

その先へ...

こあら通信 歴代イラスト担当よりひとこと



遊先生

300号おめでとうございます。当時小学生の私にとってコアアはとて難しくて、もっと書きやすい動物がいいのに...と思っていました。毎回苦労して書いていたのを覚えています。そんな私も内科医として4月から小田原に帰ってくることになりましたので、どうぞよろしくお祈りします！(遊先生は横田先生の三女です。この春から小田原市内の病院に勤務予定です)



前田

祝こあら通信300号☆10年以上前にイラスト等担当していました。世代や時代が変わっても、子育てする保護者の心配は変わりません。子育て応援ツールとして、いつまでも安心できる情報源であり続けよう応援しています。



高田

300号おめでとうございます。幼稚園~小学校とお世話になっていた一患者でしたが、その何年後、このような形で関わることになると思いませんでした。貴重な経験をさせていただきありがとうございます。

読者の声

この度は創立30周年おめでとうございます。横田院長には私が幼い頃から今も子どもを連れて長きに渡り診療いただき感謝しております。先生やスタッフのみなさんが笑顔で優しく迎えてくださるおかげで、私も子どもたちも安心して通院できています。この地域の子どもたちにとって大切な存在である横田小児科医院さん、これからもよろしくお祈りします。

患者NO.587 Y.T.さん

こあら通信300号おめでとうございます。毎月欠かさず読んでいます。役立つ事はもちろん、横田先生のプライベートも知ることができ、ちょっぴり嬉しいです。私は子どもの頃、横田先生のお父様の時から診てもらっていました。今では我が子と通うことができ、とてつもないご縁を感じます。そしてれいな先生、スタッフの皆さんが優しく親切でいつ行っても安心できる場所です。これからもずーっと頼りにしています！

患者NO.91 K.O.さん

私の子どもの頃の医院の記憶は、横田先生の優しい笑顔。中学生までずっとお世話になっていました。そして現在は息子が。生後1か月半で高熱を出しヒヤヒヤした時から2歳の今まで、毎月のように受診しています。息子が辛そうにしていると、親は焦りや不安が心を占めますが、医院で優しく丁寧に対応してもらい、横田先生やれいな先生に笑顔で診察してもらうことで安心することができています。親になって初めて、かかりつけの小児科は子育てにおいてとても重要で、かつ身近な存在なのだ実感しています。

患者NO.272 A.Y.さん